

# 北海道 SPECIAL プロジェクト



網走

## クッキング&コンサート

平成29年10月13日(金)

日本体育大学附属高等支援学校 人形劇・馬頭琴鑑賞・クッキング教室

稚内

## スペシャルサーカス

平成29年11月21日(火)

北海道稚内養護学校 ジャグリング&BMX

函館

## アスリートトークコンサート

平成29年11月28日(火)

北海道函館盲学校 弦楽四重奏・アスリートトーク

## 北海道Specialプロジェクトとは？

2020年からの新たな特別支援教育（学習指導要領改訂）を契機に、北海道内の特別支援学校で、スポーツ・文化・教育活動の祭典を開催することを通じて、「ほんもの」のスポーツ・芸術に触れ感動する機会や障がいの有無等を超えて誰もが心を触れ合う機会を創出するとともに、地域住民の主体的な参画による、地域の共生社会の拠点づくりに資する事を目的としている。

今年度は、網走、稚内、函館の3カ所でプログラムを実施し、児童生徒をはじめとした参加者が、「ほんもの」に触れる機会を創出するため、音楽やスポーツ、料理など多様な専門家を招聘した。



# クッキング&コンサート

北海道スペシャルプロジェクト第1弾として、日本体育大学附属高等支援学校を舞台に、日体大附属の学校施設を活用したクッキング教室、そして、道内でモンゴル音楽の演奏活動



日 時

平成29年10月13日(金) 10:30~15:00

会 場

日本体育大学附属高等支援学校

講 師

人形劇団たんぽぽ (人形劇)  
馬頭琴ユニットgiingo (馬頭琴演奏)  
星澤雅也 (クッキング教室)

## 人形劇



網走市を中心に活動している、人形劇団たんぽぽが、人形劇や大型紙芝居、てぶくろ人形のダンスなどを上演した。

人気絵本をもとにした「ともだちや」、イギリス昔話を脚色した「さんびきのこぶた」、童謡の「にんげんっていいな」に合わせた、てぶくろ人形のダンスなどのプログラムを生徒達は楽しむことができた。

劇中に使用する、大型紙芝居や人形、背景などのセットは、すべて劇団員の手作りであり、上演後は生徒達が、人形を実際に動かしてみる場面もみられた。



## 馬頭琴演奏



北海道内で、モンゴル音楽の演奏活動をしている馬頭琴ユニットgiingoが、馬頭琴や口琴、モンゴルホーミーの演奏を行った。

ほとんどの生徒は、初めてモンゴル音楽を見聞きしたようで、物珍しそうな様子で鑑賞する生徒や、音楽に合わせて体を動かす生徒もおり、それぞれが音楽を楽しんでいた。

また、口琴のように北海道の民族文化とも共通する楽器もあり、演奏終了後は、実際に馬頭琴やモンゴルの太鼓などに触れる姿も見られた。



北海道網走養護学校の生徒が参加して「網走クッキング&コンサート」を開催した。  
を実施しているアーティストのミニコンサート、地元網走で活動している人形劇団によるプログラムを実施した。

## クッキング教室



星澤クッキングスタジオより、クッキング講師の星澤雅也氏をお招きし、クッキング教室を実施した。

日体大附属高等支援学校のピザ釜を活用したピザ作りでは、前日から星澤氏が仕込みを行ったピザ生地を使用し、日体大附属高等支援学校で収穫された玉ねぎ等の野菜をトッピングした。

また、教職員と協力しながら生徒が自らピザを焼く場面も見られた。クッキー作りでは、型ではなくスプーンを使用して成形するほうじ茶クッキー作りを行った。

生徒は、講師の星澤氏とコミュニケーションを取りながらピザ作りや、クッキー作りを楽しんでいる様子であった。

完成したピザは、その場で試食、クッキーはラッピングし、お土産として生徒が持ち帰った。



### 参加者らの反応

生徒は、人形劇と紙芝居を食い入るように見ていた。馬頭琴の演奏に合わせて踊り出す生徒もあり、楽器に興味を持った生徒は楽器に触れることができ満足そうな様子であった。クッキング教室では、引率教師の助けを受けながらではあるが、楽しそうな笑顔でピザを作り、焼き、試食していた。生徒だけでなく、教職員も生徒と一緒に楽しそうに参加していた。



### 学校としての今後の展望

本事業実施をきっかけに、網走養護学校との学校間交流を継続的に実施することを検討している。また、今回人形劇などを公演した、人形劇団タンポポとの連携を検討しているほか、網走市や地域の社会教育団体等との連携についても検討している。



### 講師のコメント 星澤雅也さん

特別支援学校でクッキング教室を行うのは初めての経験であった。準備期間には、担当教員の方とコミュニケーションをとり、しっかりと準備したおかげで滞りなく進めることができた。

想定していたよりもできる作業が多く、驚いた。調理の様子を見てみると、それぞれ得意な作業、不得意な作業があるので、適材適所に配置すれば、より効率よく作業ができると感じた。

実際に生徒の様子を観察することができれば、どのような作業ができるのか、どのような難度のレシピにするのかといった検討がしやすくなると思う。実際に、事前に様子を観察するのは難しいので、分かりやすい指標のようなものがあると良いと考える。





# スペシャルサーカス

北海道稚内養護学校では、サーカスの演目には欠かせないジャグリングと、近年世界の稚内スペシャルサーカスには、稚内養護の児童生徒だけでなく、近隣小学校や、近隣福



日 時

平成29年11月21日(火) 10:20~11:50

会 場

北海道稚内養護学校

講 師

パフォーマー☆ケイタ (ジャグリング)  
吉田尚生 (BMX)

## ジャグリング

北海道内で活躍するジャグラーのパフォーマー☆ケイタ氏を招聘し、ジャグリング、ディアボロ（中国ごま）、バランスパフォーマンスなどを披露し、軽快なトークとパフォーマンスで観客を沸かせた。

また、水晶玉を使用したパフォーマンスでは、参加者の近くに寄ってパフォーマンスをし、稚内養護の児童生徒も興味津々の様子であった。



## BMX



世界的にも有名なサーカスでも出演経験のある吉田尚生氏を招聘し、BMXパフォーマンスを披露した。また、アシスタントとして、小学生BMXライダーの渡邊君も同行し、パフォーマンスに参加した。

参加者は世界レベルの卓越したパフォーマンスを鑑賞するだけでなく、実際にパフォーマンスに参加するなど、それぞれの形で世界レベルのパフォーマンスを体感した。



サーカスでも取り入れられているBMXのライダーを招聘し、パフォーマンスを行った。社施設、地域の方など135名が参加した。

### 参加者らの反応

児童生徒からは、ジャグリングやBMXのパフォーマンスを見て、「水晶玉を浮かせたのがすごかった」「自転車でぐるりと回ったりしてすごかった」「かっこよかった」「すごかった」「楽しかった」「おもしろかった」などの感想を持った様子である。なかには、BMXの3人乗りを体験した生徒もあり、初めて見るパフォーマンスに感動した様子であった。参加した地域住民からは町内会のお祭りにも来て欲しいという声も上がっていた。

教職員からは、子どもたちもパフォーマンスの大きな動きに惹きつけられて見ている様子を見て集団が苦手な子どもも、みんなと一緒に落ち着いて参加することができたといった意見が出た。



### 学校としての今後の展望

児童生徒にとって、新しい経験、興味関心の拡大に繋がった。また、稚内養護学校を会場に、その場にいる人たちが「ほんもの（質の高い演技）」に触れ、感動を共有することができた。

さらに児童生徒が、パフォーマーの姿を見て、努力することの大切さや、失敗しても再挑戦することの大切さを学ぶことができた。



### 講師のコメント 吉田尚生さん

想像以上に楽しんでパフォーマンスすることができた。また、特別支援学校でのパフォーマンスは初めてであったが、児童生徒は想像以上に元気いっぱい、自分も元気をもらうことができた。障がいのあるなしに関わらず、パフォーマンスを楽しんでもらえたことは、自分にとっても勉強になった。

もし、また機会があれば、ふれあう時間がもっと多ければ、より多くのことを伝えていきたい。





# アスリートトークコンサート

北海道スペシャルプロジェクト第3弾として、北海道函館盲学校を舞台に、近隣の高等支援世界で活躍する弦楽四重奏団のミニコンサートと、2016年に行われたリオデジャネイロ



日 時

平成29年11月28日(火)

会 場

北海道函館盲学校

講 師

クアルテット・エクセルシオ (弦楽四重奏)  
木村敬一 (パラリンピアン)

## 弦楽四重奏



世界を舞台に活躍する、国内では希有な常設の弦楽四重奏団である、クアルテット・エクセルシオをお招きし、ミニコンサートを実施した。クアルテットを構成する楽器の説明や、曲についての説明もあり、初めて弦楽四重奏に触れた参加者もより演奏を楽しむことができた。

普段よく耳にする定番の曲から、参加者が一緒に参加できる曲、スポーツに関する曲から、本格的なクラシックの楽曲も演奏した。

また、アンコールとして、1972年札幌オリンピックの際に製作された、「虹と雪のバラード」の演奏に乗せて、参加者も一緒に合唱した。



### 参加者の反応

函館アスリートトークコンサートに参加した児童生徒は、木村敬一氏のお話から、社会で活躍する先輩の姿に、障がいがあっても、頑張る勇気をもらったり、将来への希望をもつことができた。

また、教職員にとっても、社会で活躍する木村敬一氏のお話から、子ども達が一生懸命打ち込めるものを見つけて、社会とつながっていくための教育活動の推進について考える機会となった。

地域住民にとっては、函館盲学校の教育内容や施設、設備、歴史、視覚障がい教育に関する理解を深める機会となった。



学校や小学校の特別支援学級の児童生徒が参加して『函館アスリートトーク コンサート』を開催した。パラリンピックなどで活躍した水泳のメダリストを招聘し、トークショーを行った。

## アスリートトーク

2012年のロンドンオリンピックで2つ、2016年のリオデジャネイロオリンピックでは4つの銀、銅メダルを獲得した全盲のパラスイマー、木村敬一選手を招き、トークショーを実施した。

会場校である函館盲学校の卒業生と木村選手が高校の同級生であったというエピソードを披露するなど、参加者も親しみを持って木村選手を迎える事となった。

木村選手が、水泳を始めたきっかけや、パラリンピックで感じたことや、2020年に東京開催されるパラリンピックへの思いを語った。

最後に木村選手から参加者へ、水泳を始めたことで色々な人と繋がることが出来た。児童、生徒のみならず、自分が打ち込めるものと出会い、たくさんの人と繋がって欲しい。楽しいことばかりではないが、その先には素晴らしいことが待っているので頑張って欲しいとのメッセージを送った。

アスリートトークでは、リオパラリンピックのメダルを参加者に披露した。リオパラリンピックのメダルは、金、銀、銅、それぞれ違う音がなるようにできており、木村選手が獲得した、銀、銅メダルのそれぞれの音をきかせてもらった。

トークのあとは、参加者が実際にメダルに触れ、その重さや大きさに驚きながらも、積極的に木村選手と交流をはかることができた。



### 学校としての今後の展望

本事業を契機として、本校の幼児児童生徒の教育活動の充実（指導する人材の育成）や、視覚障がい教育の理解啓発と地域への広報活動のさらなる推進、また近隣学校間との連携の継続に繋げていきたい。

### 講師のコメント 木村敬一選手

函館アスリートトークコンサートにて、楽しい時間を過ごすことができた。今回のイベントは、パラリンピックについて知ってもらうきっかけとなっただけでなく、弦楽四重奏の演奏を聴いて、自分の世界が広がり、自分も成長するきっかけとなった。

また機会があれば、お話だけでなく一緒に体を動かすような体験型のプログラムができるといいと考える。



## 北海道Specialプロジェクトの展開イメージ



## 3会場における実践を通じた成果と課題

### 成果

- **感動の共有** → 「ほんもの(質の高い演技や体験、講話)」に触れ、参加している人たちの感動の共有につながった。
- **地域への発信** → 地域の方々と一体となった事業を実施することで、学校の教育活動に対する理解の促進、学校の取組みの発信につながった。
- **地域との連携** → 地域と連携した取組みを通じて、近隣の学校間の連携、地域の社会教育団体との連携につながった。

### 課題

- 学校の教育活動との関連や行事日程等を考慮した内容を検討する必要がある。
- 児童生徒の実態を踏まえた取組みとするために、事業の内容を講師との調整をより密にする必要がある。



平成29年度 スポーツ庁委託事業  
「Specialプロジェクト2020  
(Specialプロジェクト2020体制整備事業)」